



会報 防災だより

2011
VOL.7
9月30日発行

CONTENTS

- | | | |
|-------------------------|-----------|----|
| 1. 東日本大震災 ～復興への願いを込めて～ | 会長 大黒裕明 | 2P |
| 2. 大震災の経験から防災体制の構築を目指して | 消防長 嶋津明 | 3P |
| 3. 平成23年度定時総会 | | 4P |
| 4. 第3回防災意見発表会 | | 5P |
| 5. 防火管理に関する資格取得講習会開催 | | 6P |
| 6. 第34回少年消防クラブリーダー研修会開催 | | 6P |
| 7. 住宅用火災警報器 全戸設置を目指して | | 6P |
| 8. 上半期火災概況 | | 7P |
| 9. 消火器の規格と点検基準が改正されました | | 7P |
| 10. 趣味をもとう | 小澤ゆり子 | 8P |
| 11. 会員事業所紹介コーナー | 東北メディカル学院 | 8P |

題字揮毫 大黒会長



東日本大震災

復興への願いを込めて

八戸地域防災協会

会長 大黒裕明

日頃は当協会の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。防災だより第7号をお届けします。

さて、3月11日の地震と津波、その後の余震等で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。大自然の力は本当に大きなもの、私の会社でも見ている間に周囲を海水に取り囲まれ、一時は完全に孤立状態となりました。それだけでも酷い目に遭ったと思っていたのに、大きな漁船が陸に打ち上げられたり、事務所や自宅が完全に水没したり、大切にしていた自動車が使い物にならなくなったりと様々な被害を受けられた話がある。いろいろな方から伝わってきます。そうかと思うと、「車は捨てても一命を大事にするように」と冷静な判断を下し死者の出るのを食い止めた事業所長さんや、部下の避難に心を砕くあまり自分自身が逃げ遅れ高いポールに捉まって事なきを得た人の話なども聞こ

え、緊急時のリーダーの皆さんの苦勞が目に見えるようです。今回の場合は30時間以上にも及ぶ停電のため非常用発電装置を持たない事業所などでは情報の伝達

が不十分なことがあった様で、電気が無くなると、テレビも電話もインターネットも、ストーブやコンロ、水道までもが使えなくなるというのは余りにも生活が電力に頼り過ぎで、安全安心の街としてこのような状態で良いのか今後の課題として考えなければなりません。ラジオにしても全県や全国放送では地域の情報は流されず、唯一BeFMだけが『……地区……丁目付近の被害は……』と詳細に伝えてくれました。行政も広報車を走らせて市民への伝達に勤めていましたが十分とは言えず、双方の協力体制を普段からもっと高めて地域限定の情報インフラとして育成すれば、万一の時には市民への伝達の有効な手段として使えるでしょう。

災害の想定と言うものは難しいということを実感しました。もちろん、どんなものが来ても耐えられる設備があれば望ましいのでしょうが、私達事業者にとっては採算性も無視できない要因で、このことについては今後議論し検討することが必要でしょう。

我々の先輩たちは、様々なものを作り、いろいろな仕組みを考えて荒廃した国土を実り豊かにしてきました。それらは概ね上手く行き、次の世代はその形を踏襲することで時々起こる事態を超えてきました。今回の震災でも震源地が南の方という幸運があったというものの、先人たちの知恵と力を注いだ防波堤やその他の施設が被害を比較的少なく止めた大きな理由だと思えます。しかしさらに広く見渡すと、もはや先輩たちの想定を超えていることや方向の変わっていることが多く、もちろん経験の全てを否定するものではありませんが、私達は過去に囚われることなく、現在と将来のために安全な地域づくりを原点に立ち戻って考えなければなりません。今回の地震が歴史に残ると言われているのは津波の大きさもさることながら原子力施設の被災があったからで、国としての将来展望を変える議論さえなされています。



臨港道路



蕪島

す。青森県は東日本のエネルギー基地としてこれまで名乗りを上げて来たのですから、もう少しその話の中心に入ってもよさそうなのですが、マスコミ報道を見る限りでは、どうも追いやられているような気がします。それどころか、被災したのは福島・宮城・岩手の三県だけで青森がいつの間にかリフトから外されているようで、もう一度アピールし直さなければならぬのではないかと心配になります。

それでも八戸は現在のところ復興への意欲や活動が、いまだ残骸の処理のままならない他の地域よりは積極的で、賑わいを取り戻すのもそう遠い話ではないと期待が持てます。こんなことがあります。

た。震災の次の日、なかなか朝刊が来ないので流石に今日は休みかと思っていたらいつもより二時間以上遅れてやってきました。わずか一枚、四ページしかなかったのですが、そこに載せられている写真はずつかり合う船や渦に巻き込まれる自動車など迫力満点のものばかりで、カメラマンはどうやって撮ったのだろうか、停電の真ん中印刷したのだろうか、配達したのだろうかと感心させられました。そう思うとバイクで走り去る配達員の後姿も使命感をたぎらせているように見え、この遅しさがあある限り我が街は大丈夫と自信が持てました。挫けることなく、復興に手を携えようではありませんか。



大震災の経験から 防災体制の構築を目指して

消防長 嶋津 明

会員の皆様方におかれましては、消防行政に対しまして日頃からご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

併せて、3月11日の東日本大震災で被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。

消防本部では、貴協会約950事業所に対して震災に関するアンケート調査を行い、608件(63.5%)の回答をいただきました。お忙しい中ご協力を頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

結果についてまとめましたので、是非ご覧いただきたいと思っております。

今回の震災で、津波被害が大きかった釜石市の取組みが話題になりました。市内の小中学生約3千人のうち、欠席などで学校管理下になかった5名が犠牲になったものの、ほぼ全員が無事だったというのです。同市の死者・行方不明者が1,300人を超えていることを考えれば奇跡的な事だと思えます。

これは、群馬大学の片田敏孝教

授が防災アドバイザーとなり、8年前から小中学生に徹底した津波防災教育を行った成果でした。

その要点は、「想定を信じるな」、「その状況下で最善を尽くせ」、「率先避難者たれ」の「避難3原則」。

想定に頼りすぎないこと。避難に際しては、この程度でいいと決めつけないで、その時自分ができる最善を尽くすこと。まず自分が逃げる事が周囲の避難行動につながる事。これを教育委員会と協力して教えました。

この防災教育は子供たちから親に伝わり、地域に伝わるはずでした。小中学生は教えどおり行動しましたが、特に津波被害想定地域外での死者が多く、取組み半ばだったと言っています。

「津波でんでこ」という言葉もよく聞かれました。「津波のときは家族のことさえ気にせず、でんでバラバラに一人ひとりが逃げろ」という意味であり、津波常襲地域にある三陸沿岸で、津波による一家の滅亡を防ぐための言い伝

えます。

過去の経験を語り継ぎ、それぞれが逃げる能力を持つこと。そして、それを信じ合っているからこそできるのだと思います。

今回調査したアンケートを見ますと、情報、連絡、暖房など長期停電による影響が最も大きく、地震や津波による直接的な被害がなかった事業所でも、多くの困難に直面した様子がうかがわれます。また、避難すべきか判断に迷った事業所もあるようです。

釜石市の例や「津波でんでこ」は、命を守るという最も重要なことの教訓として、参考にすべき点があると思います。

次の災害に活かすには、自らの体験や他の事業所の教訓を基に様々な想定をし、事前の準備をしておくこと、そして、実際に動けるよう訓練を重ねておくしかありません。

災害が大きく広範囲になりますと、我々消防も、その全てに対応することが困難となります。その分、平常時には、いざという時皆様が対応できるように、訓練や指導に十分な対応をしたいと考えております。

会員事業所それぞれが災害に強くなることで、その輪が広がり、地域全体の防災意識が高まってい

くと思います。今後とも、八戸地域の防災力を高めるため、共に手を携えて参りましょう。

さて、当消防本部では、住宅用火災警報器の普及にも引き続き力を入れております。平成23年6月時点の普及率は八戸広域消防管内で69.7%となっており、青森県内の平均をわずかに下回っています。職場ぐるみで設置促進に取り組み、知り合いの方で未設置の方がいらつしやいましたら勧めてい

予防課紹介

四月一日の定期異動により、消防本部予防課が次のとおりとなりました。

田中 正二(課長)
田端 民夫(参事)

上野 統久
(課長補佐兼保安調査班長)
齋藤 明
(副参事兼設備指導班長)

◎大下 武晃(設備指導班主査)
工藤 智也(保安調査班主査)
大嶋 洋一(設備指導班主査)
賣井坂常幸(保安調査班)
木村 大樹(設備指導班)
◎齋藤 智美(協会職員)

※◎は、防災協会の事務局を担当しています。
今後ともご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

ただくなど、ご協力をお願いいたします。

結びに、貴協会のますますのご発展とそれぞれの事業所のご隆盛、そして会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

新規事業所紹介

平成23年度加入

- 一部会
 - ◎八戸市南郷屋内温水プール
 - 八戸市南郷屋内運動場
 - ◎八戸市南郷体育館
 - 二部会
 - ◎サークルK八戸ニュータウン西店
 - ◎(有)ティーバード
 - ◎(株)まるまん
 - 三部会
 - ◎小さなデイサービス「へば倶楽部」
 - ◎デイサービスセンターひまわり苑
 - 五部会
 - ◎(株)マルヌシ
 - 六部会
 - ◎(株)近田会計事務所
 - ◎下長第一オフィス
 - ◎(株)ハシモトホーム
 - 七部会
 - ◎パルム惣門町
 - ◎大久喜農業集落多目的集会施設
- 平成23年9月1日現在
総会員数956事業所

平成23年度 定時総会 開催



去る5月25日（水）八戸グランドホテルに於いて123名出席のもと「平成23年度八戸地域防災協会総会」が開催されました。総会に先立ちまして、東日本大震災で犠牲になられた方々と、昨年12月にご逝去された当協会前副会長 苦米地吉友様に対して黙とうを捧げました。

また、「八戸地域防災協会の歌」を、音楽講師の坂本利枝子様からご披露頂きました。

総会は、大黒裕明会長が議長を務め、平



成22年度の事業結果報告、収支決算など全ての議案が原案通り承認可決されました。続いて役員の一部改選が行われ、副会長2名、理事3名が新任されました。新役員紹介の後、平成23年度事業計画、収支予算の議案が承認可決されました。

また、総会終了後に小林眞八戸市長を始めとして多くの来賓を招待して懇談会が行われ、盛会裏に終了しました。

平成23年度

事業計画

- 1 災害時要援護者支援事業
 - (1) 住宅用火災警報器寄贈設置
 - (2) 電気・水道、燃焼器具設備等の点検修理
- 2 防火防災思想普及事業
 - (1) 火災予防運動用ポスター作製及び配布
 - (2) 各種防火チラシ作成及び配布
- 3 研修
 - (1) 消防用設備等の研修
 - (2) 各種施設等の見学
 - (3) 講演会の開催
 - (4) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
- 4 機関紙の発行
- 5 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供
 - (1) 防火管理者新規講習会の後援及び実施の周知
 - (2) 甲種防火管理再講習の後援
 - (3) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供
- 6 幼年・少年・婦人消防クラブの育成援助
- 7 加入促進事業の推進
- 8 友好姉妹協会（枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会）創立60周年記念式典参加
- 9 住宅用火災警報器設置促進
- (5) 救命講習の実施
- (6) 防災士の養成

協会役員

会長	大黒裕明	理事	田頭正嗣
副会長	工藤美登	理事	柳谷利通
副会長	梶沢幸苗	理事	高橋秀美
副会長	小野十三宏	理事	島浦千晴
副会長	豊山周二	理事	中野喜代芽
副会長	北山幸吉	理事	和田和徳
副会長	山岸武男	理事	木村健一
副会長	福澤光雄	理事	居城三佳子
副会長	田名部喜栄	理事	高橋清隆
理事	高橋芳優	理事	山子則男
理事	加藤代	理事	小川洋一郎
		理事	木村稔
		理事	小田敏明
		理事	佐々木敏治
		理事	金正夫
		理事	神山明久
		理事	長谷地洋一
		理事	李隆聖
		理事	齊藤浩
		理事	佐藤準
		理事	木村治
		理事	野澤俊雄
		理事	鳥谷富子

※◎は、新任役員です。

第3回

防災意見 発表会

防災士養成講座を 受講して



エスプロモ(株)
坂本 久直さん

5月25日、「第3回防災意見発表会」が八戸グランドホテルで開催されました。地域における防

防災士になって経験した東日本大震災での対応を発表されました。講座で学んだ自助(自分の命は自分で守る)、共助(自分たちのまちは自分たちで守る)、公助(公的機関による救助・救護)の考え

方、今回の大震災ではどのような機能したかを検証し、事前計画とともに応用動作ができる心の備えが大切であることを、「本当の危機管理は皆の意識の中にある」という言葉で訴えました。

住宅用火災警報器の 普及活動



三菱製紙
(株)八戸工場
金 正夫さん

「発表者の防災に対する問題意識と向上心が伝わり、心に響くものでした。会員の皆様が今後の防災活動に活かし、職場や地域に防災の輪を広げてくださるよう期待しています。」との講評がありました。

会社を挙げて共同購入に取り組んだ経緯をわかりやすく発表されました。

値段交渉や住警器の説明、品物が届いてからは分別や配達まで引き受け大変な苦労をしながらも、2000個を超える購入がありました。

「住警器のおかげで命が助かった」という話を聞いて、多くの人に転じてよかった。命を守るための住警器を周りの人に是非勧めてください。」というお話は、非常に説得力のある発表でした。

防災士として



八戸市防災安全部
防災危機管理課
田村 嘉共さん

八戸市職員に採用されたばかりの昨年受講した防災士養成講座で学んだことや、伝えたいことを発表されました。

大規模災害の直後は公助の部分制限されるため、普段から自助と共助の重要性を広めなければならぬ。自らの安全を確保するこ

とから始め、どんな状況にも対応できる柔軟な防災士を目指したいとの決意に満ちた発表でした。

自主防災活動について



白銀婦人消防クラブ
本堂 遥さん

東日本大震災の際、避難所で炊き出し班として活動した体験を、臨場感あふれる内容で発表されました。

少ない食材を工夫して準備したこと、子供たちや高齢者への精神的なストレスへの配慮など、きめ細かい対応をしながら、地域の方々が協力し合って避難所生活を運営したことは、地域の団結力が伝わる内容でした。



きっかけは私たち



八戸消防署
中居 祐介さん

普段防災訓練等に参加できない方にも防災を考えるきっかけを提供するため、小規模な防火講話を開催したい。心に響く講話をするためには、防災知識や講話のノウハウを身につけ、身近なところから訴え続けなければならぬ。何かを始めるときの原動力となる「きっかけ」は私たち自身なのだという力強い発表でした。

第34回少年消防クラブ リーダー研修会開催

この研修会は少年消防クラブの活動が盛んなものとなり、立派なクラブにするため、そのリーダーとなって活躍する小学生の体験合宿研修です。

昭和53年から始まり、これまでに研修会を修了したリーダーは2,219名になります。

当協会は後援として、お手伝いしているものです。

今回の研修会は、7月26日から28日まで2泊3日の日程で、青森県立種差少年自然の家にて47名のリーダーが参加し、火災予防に関する勉強会を始め、レスキュー体験訓練、キャンドルファイヤーなどの内容で実施されました。

協会から記念品として、少年消防クラブのシンボルマーク入りのアプロキャップと文房具を大黒会長から贈呈しました。



防火管理に関する 資格取得講習会開催

平成23年度度の防火管理に関する資格取得講習会は、7月6日、7日の2日間（於 グランドサンビア八戸）の日程で開催されました。

今回の講習会では、甲種防火管理講習291名、乙種防火管理講習16名の計307名の方々が新たに防火管理者の資格を取得されました。

消防法により、一定規模以上の防火対象物は、資格を有する防火管理者を選任し、防火管理業務を行わなければならないこととなっており、その資格を取得するための講習会を八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部が開催し、後援として、当協会がお手伝いし毎年実施しているものです。

新たに資格を取得された方々は、これから防火管理体制の充実、強化にご尽力くださいますようお願い致します。



住宅用火災警報器 全戸設置を目指して

ハァー 巷で噂の粋なやつ あなたの命を守ります

これは、職員が作詞、作曲した「家庭あんしん音頭」の最初の歌詞です。

この歌詞のとおり、住警器は住宅火災による死者を減らすために設置が義務化されたものです。普及が進むにつれ、火事を早期に発見できたため初期消火や避難に成功したり、鍋の具材を焦がしただけで済んだなどの奏功事例も増えています。

しかし、当消防本部の普及率は、県及び全国平均をわずかではありますが、下回っている現状です。

消防本部では、今年も、職員による寸劇団「防災戦士ダッシュ119」や、冒頭の「家庭あんしん音頭」を婦人消防クラブの方々にお願ひし、各事業所や各種イベント等で披露して、設置促進活動を展開しています。

職場ぐるみで設置促進に取り組んでいただいていると思いますが、知り合いの方などで、まだ設置していない方がありましたら、勧めていただくなどご協力をお願いします。

また、設置個数が足りない方は、イラストを参考に買い増しをお願いします。

詳しくは、八戸地域広域市町村圏事務組合のホームページで紹介しています。（<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/koiki/index.html>）

普及率

八戸消防本部	69.7%
八戸市	71.2%
三戸町	56.4%
五戸町	60.4%
田子町	97.5%
南部町	58.1%
階上町	61.9%
新郷村	95.7%
おいらせ町	62.8%
青森県	71.2%
全国	71.1%

※普及率は平成23年6月時点の推計普及率（総務省消防庁発表）



平成23年上半期広域圏内の火災概況

(平成23年1月1日～6月30日)

平成23年上半期の火災の発生状況は、総出火件数が90件で、前年同期と比べ19件増加となっている。

火災種別は、建物火災63件（前年同期比16件増）、林野火災3件（同5件減）、車両火災12件（同8件増）、その他の火災12件（前年同数）となっている。

焼損棟数は140棟（前年同期比61棟増）、り災世帯は65世帯（同15世帯増）、り災人員は164人（同27人増）、死者は2人（同2人減）、負傷者は30人（同2人増）となっている。

損害額は2億4,326万2千円（同1億2,386万6千円増）となっている。

東日本大震災による火災は7件で、内訳は建物火災が3件、車両火災が4件となっている。

カッコ内は地震によるもの、△は減少

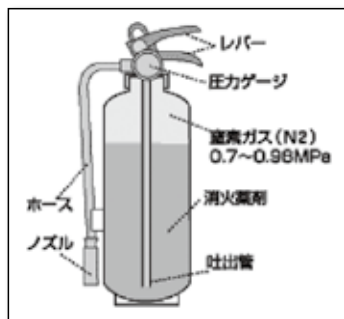
区 分	平成23年上半期 (A)	平成22年上半期 (B)	増 減 (A) - (B)	
総 出 火 件 数	90 (7)	71	19	
火 災 種 別	建 物	63 (3)	47	16
	林 野	3	8	△5
	車 両	12 (4)	4	8
	船 舶			
	航 空 機			
	そ の 他	12	12	
焼 損 棟 数 (棟)	140 (3)	79	61	
建 物 焼 損 面 積 (㎡)	5,724 (40)	3,285	2,439	
林 野 焼 損 面 積 (a)	365	153	212	
死 者 (人)	2	4	△2	
負 傷 者 (人)	30	28	2	
り 災 世 帯	65	50	15	
り 災 人 員 (人)	164 (2)	137	27	
損 害 額 (千円)	243,262 (33,628)	119,396	123,866	

消火器の規格と点検基準が改正されました

平成21年9月に大阪で起きた消火器の破裂事故等を踏まえ、消火器に関する法令が改正され、消火器の規格や点検基準が変わりました。現在お使いの消火器は、直ちに交換する必要はありませんが、計画的な点検と更新が必要になります。

①消火器の規格改正（2011年1月1日施行）

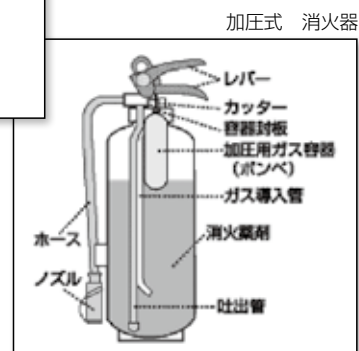
- ・消火器の表示ラベルの規格が変更になり、安全表示が充実されました。
- ・2012年1月1日から旧型式の消火器は販売、設置ができなくなります。ただし、既に各事業所に設置されているものは10年間の設置猶予があります。（2021年12月31日まで）



加圧式 消火器

②点検基準の改正（2011年4月1日施行）

- ・製造年から10年経過した消火器は、耐圧性能点検（水圧試験）が義務付けられ、以後3年ごとの水圧試験が必要となります。
- ・2014年3月31日までに10年を経過するものは、それまでに耐圧性能点検が必要です。
- ・機器点検（内部及び機能）の時期が、畜圧式、加圧式とも3年だったものが、畜圧式5年、加圧式3年になります。



加圧式 消火器

趣味をもと

出会いで心豊かに

うぐいす保育園 園長

小澤 ゆり子



娘に連れられて美術館を訪ねた時、同じ建物の中で万華鏡を初めて見た。その日が展示会最終日の午後だった。あまりの美しさに魅入り、帰る時間を忘れるほど、それぞれの異なる技法の万華鏡は神秘的で不思議な感覚にとらわれたのを覚えていた。

色彩の魅力は睡眠時間を減らして製作していたアートフラワーと合い通じて、その奥深さに吸い込まれた。結婚前から続けてきた長年の趣味であるアートフラワーは、色々な面から精神的な支えであった。白い布を染色、特殊なコテ先で形付け、花に作り上げる工程は、職業の保育をするという事と、先にある出来栄の魅力は共通していると考えた。

ある日旅先で、外国映画の一場面のように

うな店があり、軽快な曲が流れ、カラフルな2台のオープンカーが並べてあった。数日後、昔風なタバコ屋の店先で模型と遭遇。また、飛行機の中で見た通販のカタログに、求めても入手出来ずにいた模型のキャデラックが日本限定100台と掲載されていた。着陸もどかしく、宿について直ぐFAX。不思議なまでの連続する奇縁にコレクターに変貌。懐古趣味に徹して名の知れたクラシックカーのミュージアムを訪ねまわった。100年も前の実車は、カラフルで豪華で繊細な細工がしてあった。私の場合は、おもちゃとも言える模型の収集ではあるが、一台一台に魅惑され、その出会いとエピソードはアルバムのように増えてきた。

明日という日に何と巡り合えるか、いつまでも五官による五感を大切に、全ての人や物の価値に感謝をしたい。

会員事業所紹介コーナー⑤

北の山脈 雪白く
萌え立つ丘は 風そよぎ
希望すこやか 高い空
ああ 青春の歌奏て
医療の学院に 枝浜ゆる
枝場出て湯の 湧く郷は
尽きせぬ水も 清らかに
明日へ歴史を つなぐ音
ああ 青春の知恵あふれ
医療の学院に 花ひらく

(校歌 作詞 冬山 純・作曲 最上哲三)



学校法人 臨研学園 東北メディカル学院

住所：三戸郡五戸町字苗代沢3番地638
TEL：(0178) 61-0606

私どもの学校は、リハビリテーション医療の中核をなす理学療法士(P.T)・作業療法士(O.T)を養成する4年制専修学校として、平成15年4月、五戸町に開校し、すでに250余名の卒業生を輩出しております。

未踏高齢社会を迎え、国民生活の「安心」と「安定」を支える社会保障制度の役割が益々高まる中で、いまこそ良質な医療サービスが安定的に提供できる医療従事者の確保と、資質の向上が喫緊の課題となっております。そのため、これからの多様化・複雑化する国民ニーズに答えていく社会保障制度を支える医療・保健・福祉・介護の分野に求められる、「ココロ」と「カラダ」の調和がとれた「考える力を備えた医療人」となって、地域社会に貢献できる人材の育成に努めております。

さて、肝心の国家試験の合格率はどうかというと、例年全国平均を上回り、同種の東北地区私立専修学校及び大学の中では、常に上位を占めており大都市圏の教育機関にも決して劣らない合格率を出すことができっております。これは、ひとえに関係実習施設を始め各方面の皆様のご支援とご協力の賜物と感謝申し上げます。

学院周辺は、すばらしい緑豊かな自然と、ひばり野運動公園があり、勉学、スポーツ、余暇に適した環境が整っております。今後とも五戸町内で行われる様々な行事に学生がボランティアとして積極的に参加し、地域住民の皆様と交流を通し人間性を深めてほしいと考えております。